

川崎医療短期大学 広報誌 No.110

50th Anniversary
Kawasaki Gakuen
since 1970

特集 岡山キャンパス移転

- 新副学長からのメッセージ／名木田先生からのメッセージ
- 担任から卒業生へ／栄えある受賞者／
年間キラリ賞表彰／学生表彰
- 看護科 継灯式／医療介護福祉科 実習事例報告会
- 学友会活動
- 防災訓練／WEB公開講座報告／FD・SD研修会／
Best Activity Award
- 新任職員紹介／インフォメーション

あ
き
の
さ
き



看護科継灯式後に記念撮影
(撮影時のみマスクを外しています)

特集

岡山キャンパス移転

岡山キャンパスへの移転を控え、新見副学長には、新たなキャンパスでの学びと展望について寄稿していただきました。名木田前副学長には、開学からこれまでの松島キャンパスでの本学のあゆみを振り返って執筆していただきました。

新たな地での学びをスタートするにあたって

副学長 新見 明子



2021（令和3）年度より、名木田 恵理子前副学長の後任として副学長を拝命いたしました。岡山キャンパス移転を前に、半世紀に及んだ倉敷松島の地から新たな旅立ちの時期に任を与えられ、社会の要請に応え得る医療福祉人の育成に思いを新たに致します。

本学は、大学の理念である「^{ひと}人間をつくる、体をつくる、医療福祉学をきわめる」を基に社会に貢献できる専門的な医療福祉人を育成することを教育理念に掲げ、医療福祉関係の専門技術者並びに業務従事者の養成を目的に、現在では看護師、介護福祉士を目指す学生を育成しています。そのため、両学科ともに実践力の育成に力を入れ、卒業生の職場からも高い評価を得ています。今後は、超高齢化社会が継続する我が国においては、一人ひとりの援助者としての能力の高さが重要となります。それゆえに、看護科では、2022年4月より第5次カリキュラム改正に伴って、臨床判断能力を高める授業展開や地域ニーズを把握するフィールドワーク、他職種連携等川崎医科大学に附属する二つの大学病院や地域との連携を生かした実習などを新たに加え実践力を高めます。医療介護福祉科は、2021年度より、医療分野の理解を深めた介護福祉士の養成を全国に先駆けて3年制で開始しました。従来の介護福祉教育を基盤に、リハビリテーションや認知症などの医学的知識、^{いろう}胃瘻・^{かくだん}経管栄養法、^{かくたん}喀痰吸引などの医療的ケア技術、介護職としての病院実習など特色あるカリキュラムを編成し、医療に強い介護福祉士を育成します。このような取り組みは、近年、大学に求められている学修者本位の教育といわれる「大学で何を学び、身につけることができたか」を

より明確にしていくものとして、高校生や保護者の皆さんにも理解していただけるものと思います。

さらに、本学が重要視している専門職教育として倫理観の育成があります。「看護する」「介護する」という行為は専門性に基きます。加えて、それを実践するときには、「どのように実践するか」「しないか」など、ケアの方向付けや意思決定を行う「価値判断」が行われます。価値とは一般的には個人の主観的な評価の基準であり、文化的背景や宗教、社会的背景などが影響して形成されるため、同じ現象を見ても個々人の判断は様々です。ケアにおいて個人の主観的な評価基準で実践が左右されることは、ケアの質の低下や人権侵害など様々な問題を引き起こします。そのため、学生の段階から援助者としての態度や行動、認識の指針となる道徳的原則（いわゆる職業倫理）を身につける必要があります。専門職としてのゆるぎない職業倫理を身につけて、倫理的意思決定が行える、あるいは倫理的な問題に気づき立ち止まって考えられる人に育ってほしいと考えています。

最後になりましたが、育てていただいた倉敷の地、本学の伝統を築いてくださった同窓生の皆様に感謝し、これまでの伝統を生かしながら新たな岡山の地で地域に根差した実践力のある看護師、介護福祉士の育成のために尽力する所存です。学生の知りたい、高め合いたい、磨きたいという要望に応えることのできる新しい学びの環境を整えていきたいと考えます。





本学の成長のあゆみを振り返って

前副学長 名木田 恵理子



誕生から成長へ

本学は1973年、第一看護科、第二看護科、臨床検査科の3学科の短期大学として開学しました。そして4年後には、放射線技術科、医療秘書科を加え5学科となり、総収容定員750名の大学に急成長しました。当時はまだ医療系の大学が少なかったこともあって全国から大勢の志願者が集まってきました。大学も教員も若く、学生と一緒に道を開こうという気運にあふれていました。

その後も我が国の医療関連分野の先端を行く学科が次々に創設され、本学は総合医療短期大学としての地位を築いていきます。卒業生は学園内の附属病院はもとより全国の病院施設へと巣立っていきました。

一方で、開学20年を過ぎる頃から、川崎医療福祉大学（1991年開学）への移行が始まります。本学で礎を築いた学科が次々に4年制へと改組されていきました。在学生の、4年制大学、特に国公立大学への編入希望が目立つようになったのもこの頃からです。看護科、臨床検査科、放射線技術科を中心に、多いときは30名を超える学生が、岡山大学、神戸大学などの4年制大学に進んでいきました。

社会変革の波

改組の波が一段落した2007年からの10年余りは、看護科、臨床検査科、放射線技術科、介護福祉科（2012年、医療介護福祉科に名称変更）、医療保育科の5学科が切磋琢磨した時代です。この頃から社会の高度化により、個人情報保護、情報倫理、研究の公正化等の課題に取り組まなければならなくなりました。「短大ファミリー」といわれ比較的のんびりとしてきた本学においても、すべての活動についてエビデンスが求められる、教職員は慣れない文書化作業に追われるようになりました。さらに、自己点検評価の義務や大学教育改革推進事業への要請が強まってきました。社会変化に柔軟に対応していかなく

れば生き残れないと、教職員はこれらの課題にも協力して取り組みました。

当時始めたのが、初年次教育も兼ねた医療福祉教養講座です。医療系という本学の特徴を打ち出したものにしたい、と教職員で議論を重ねていきました。特に私学である以上、学生に「建学の理念」を植え付けることが必須です。そこで創設者・川崎 祐宣先生の記録映画を再編集して教材にすることを提案しました。「そんな古い時代のものを見せても今の学生は…」という意見もあったのですが、学生の反応は予想以上で、レポートには創設者の熱い思いに触れた感動がつづられていました。時代は変わっても人の心は変わるものではないと実感した次第です。この記録映画は今も学園全体の新入生合同研修の場で披露されています。

新たな歴史に向けて

2017年、3学科が川崎医療福祉大学へ改組されることになり、本学は看護科と医療介護福祉科の2学科となりました。多学科が生み出すダイナミズムを失った今、新しい設計図を描きなおす必要に迫られていました。そんななか、岡山市へのキャンパス移転が決まったのです。昔を知る者からいうと寂しい気もしますが、50年という節目に本学が一つの歴史を終え、次の川崎医療短期大学を創っていくリスタートにふさわしいと思えます。

振り返って思うのは、本学が多くの人によって愛され支えられてきたこと、そして、時代は変わっても学生の根本は変わらないということです。病む人、弱い人に手を差し伸べたいという、創設当時から「かわらぬおもい」を抱く学生が集う限り、本学は新たな成長の歴史を刻んでいくと信じています。



担任から卒業生へ



看護科 3年担任
影本 妙子

ご卒業おめでとうございます。皆さんは、新型コロナウイルス感染症の蔓延により様々な活動が制限される中、遠隔授業を経験しました。また、感染予防行動をとりながらの臨地実習では、学園の協力を得て、患者さんへの貴重な看護を経験しました。この倉敷の地で、苦楽を共にし、助け合いながら多くのことを乗り越えていくことのできる一生涯の友人を得たことと思います。

ここに卒業の時を迎え、看護の道を歩み始めようとしています。これからは、これまでの経験を生かし、自分らしい素敵な花を咲かせてください。誠実に努力するあなたの周りには、たくさんの友人の笑顔があふれ、人生を彩ってくれることでしょう。倉敷の地で巣立つ最後の卒業生として、伝統を引き継ぎ、感謝する心と誇りを持って社会に貢献してください。皆さんの今後のご活躍を心からお祈りしています。



看護科 3年担任
三宅 映子

ご卒業おめでとうございます。看護師になるための3年間は、予想以上に厳しく困難に直面することも多かったのではないのでしょうか。この2年間は新型コロナウイルス感染症の影響で様々な制限のある中、学習や就職への影響も多く、大変だったことと思います。しかし、皆さんは仲間と助け合ってそれらの困難を克服し、成長されました。ここで培った経験と力は、卒業後も皆さんを支えてくれるでしょう。

4月からはそれぞれの道を歩むことになります。自分の夢に向かって自信をもって進んでください。しかし、周囲の助けがあることを常に忘れないでください。皆さんも周囲に対する思いやりの気持ちを持ち、自分を振り返ることを忘れることなく、看護師として、人間として成長し続けてほしいと思います。今後の活躍を心からお祈りしています。



医療介護福祉科 2年担任
居村 貴子

ご卒業おめでとうございます。2年間を振り返ると、新型コロナウイルス感染症拡大の影響で、常に感染対策が必要となり、制限の多い学生生活だったことでしょう。入学1か月後には出校停止となってオンライン授業が開始し、学外実習も十分に行えなくなりました。様々なイベントも中止または縮小となってしまいました。そのような状況でも、クラスの雰囲気は和気あいあいとしており、前を向いて歩む姿が印象に残っています。

皆さんは4月から、それぞれの場で介護福祉士として新たな一歩を踏み出します。壁にぶつかることもあると思いますが、そのような時こそ、対象者の想いに寄り添い生活を支えるプロとして何ができるのかを考え、2年間の学びや初心を思い出してください。対象者との出逢いとかけがえのない時間を大切にして、チームの一員としてキラキラ輝きながら、介護福祉士として活躍する皆さんを応援しています。

栄えある受賞者

令和3年度卒業証書・学位記授与式は3月15日に挙行政され、「学業成績優秀で、品行が優れ、他の学生の模範とするに値する」と認められた学生に『学長賞』と『学科賞』が贈られます。

【学長賞】全卒業生のうち、特に優れた学生であると認められた場合に表彰されます。

【学科賞】各学科から1人が表彰されます。

学長賞



看護科
丸谷 菜月



医療介護福祉科
中尾 好花

学科賞



看護科
三橋 可奈子



医療介護福祉科
藤本 紗有

年間キラリ賞表彰

年間キラリ賞は、大学生活のこの一年、医療福祉人として勉学にも社会活動にもキラリと頑張りを示した学生に贈られます。



看護科
泉 結衣奈



看護科
丸谷 菜月



看護科
蓮岡 玲香



医療介護福祉科
中尾 好花

学生表彰

日本私立
看護系大学協会
会長表彰



看護科
野村 聖乃

日本介護福祉士
養成施設協会
会長賞



医療介護福祉科
藤本 紗有

看護科トピックス

継灯式



10月23日（土）に、看護科の継灯式が本学200号大講義室で挙行政されました。新型コロナウイルス感染症の影響のために、昨年度に引き続きご家族や来賓の方の参列は中止し、感染予防対策を徹底して行いました。継灯式は、ナイチンゲールの灯火を受け継ぎ、看護師という職業に対する意識を高め、責任の重さを自覚し、本格的な実習開始前に看護の道に進む決意を表明する儀式です。今年度は、127名の学生が継灯しました。式典では、キャンドルの灯りの中で、学生代表の関 真心さんと松本桃子さんがナイチンゲール誓詞を唱和しました。他の学生も心の中で共に唱和し、看護の道に進む決意を誓いました。岡田 みどり看護科主任からは、コロナ禍でも実習ができることに感謝の気持ちを忘れず、臨床現場ならではの貴重な学びをしてほしいと激励の言葉をいただきました。次に、先輩である川崎医科大学附属病院看護師の塩出 文香様からは、基礎看護学実習Ⅱでご自身の目標が見つかり、今の配属部署で働きかけになったという貴重な経験を話していただきました。また、学生代表の中岡 沙也香さんは、コロナ禍をマイナスにとらえず、医療従事者として何ができるかを考える機会と前向きにとらえ、笑顔を絶やさず、愛と思いやりをもち、患者様の心強い味方になれるように精進すると決意を述べました。

11月から始まる基礎看護学実習Ⅱを前に、看護の道を目指す決意を新たにする式典となりました。（看護科 三宅 映子）



医療介護福祉科トピックス

実習事例報告会

12月25日（土）に、令和3年度実習事例報告会が体育館101号教室で開催されました。この報告会では、医療介護福祉科の2年生が最後の学外実習で受け持った利用者さんの介護過程をまとめ、教員、学生、実習施設の指導者の方、保護者の方の前で報告を行いました。学生たちは、担当利用者さんと関わりながら利用者さんの望む生活やそこに近づくためにどうすればよいかを考え、実習指導者からの助言をもとに真剣に利用者さんと向き合った5週間の実習期間を振り返り、スライドにまとめて発表しました。ご出席いただいた実習施設の指導者の方からは、実習中の学生の様子や学生の介護計画へのご意見、実習後の利用者さんの様子も伺うことができました。保護者の方々には、学生の成長した姿を見ていただくことができました。1年生からも活発な質問があり、有意義な会となりました。

学生たちは学外実習とその報告を通して、介護の専門性について考え、利用者さん一人ひとりに合った個別ケアを行うことの大切さを改めて感じたことと思います。実習報告を通じて、学生たちは2年間の集大成を行うとともに、それぞれの理想の介護福祉士になることを誓いました。この報告会が松島キャンパスの、そして2年制課程の最後の実習事例報告会となりました。

（医療介護福祉科 熊谷 佳余子）



学友会活動

学友会紹介

学友会は、学園祭・スポーツ大会など大学行事の企画運営や、地域ボランティア、部活動・サークル活動のとりまとめを行っています。この2年間は、新型コロナウイルス感染症の影響で様々な行事が中止になりましたが、学友会メンバーは常に準備を怠りませんでした。今年度は、学園祭や防犯ボランティアなどの行事の再開に、感染対策を行いながら尽力してくれました。皆さんもぜひ参加・ご協力をお願いします。
(学生部副部長 黒田 裕子)



▲クリスマススポーツ大会

学園祭



今年度の学園祭は、新型コロナウイルス感染症の影響で、川崎学園初のオンライン開催となりました。このため、これまでとは全く異なる準備が必要となり、戸惑うことも多々ありましたが、学友会メンバーは担当パートに分かれて意見を出し合い、クイズを考え、川崎医科大学、川崎医療福祉大学、川崎リハビリテーション学院の実行委員の方と協力しながら、新しい学園祭を作ろうと努めました。これまで他大学との交流は少なかったため、この経験はと

ても良い刺激となり、4校の絆も深まりました。Web上の学園祭でしたが、統一テーマ「笑顔の密を～REBORN川崎学園祭～」のとおりみんなの笑顔があふれ、大切な思い出になりました。これからも生活の制限は続くと思いますが、みんなで笑顔の絶えない環境を作りたいと思います。

(実行委員長 看護科2年 高杉 梨々香)



▲学園祭



安全パトロール

本学から中庄駅までの間で、地域を見守る安全パトロールと清掃を2か月に1回行っています。また、岡山県警と協力して、非行防止対策や地域安全活動に取り組んでいます。2022年4月には校舎が岡山に移転するため、地域の情報や危険な場所を知ってもらえるようポスター掲示することを考えています。地域の人への挨拶など自分たちができることから行っていますので、ご協力をお願いします。
(看護科2年 田邊 愛美)

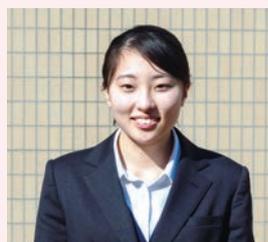


▲安全パトロール

新役員紹介

皆さん、こんにちは。学友会委員長を務めることになりました前田 桜子です。今年度は、リモートでの学園祭やコロナ禍での球技大会など、例年とは異なったイベント開催となりました。そのため、コロナ以前の活動を経験していないことが不安ではありますが、精一杯頑張ります。皆様のご協力、よろしくお願いいたします。

(2022年度学友会委員長 看護科1年 前田 桜子)



▲学友会新委員長 前田 桜子さん



▲学友会新役員

2021年度防災訓練



10月27日(水)に、校舎棟2階の空調機械室から出火した設定で防災訓練を実施しました。火災発生の通知と避難指示の後、学生は教員の指示に従って坂道を下り、避難場所である体育館前に移動しました。コロナ禍であるため、マスクを着用しソーシャルディスタンスを保ちながらの移動でしたが、学生たちは落ち着いて行動できていました。避難訓練後には秋山 祐治学長から体験することの大切さと、体験を今後に生かせるようにとの講評をいただきました。

昨年度の反省をふまえ安否確認の方法を変更し、今年度はスムーズに学生の無事を確認することができました。松島キャンパスでの防災訓練は今年度で最後になりますが、毎年訓練を行うことで、避難時対応の意識付けになることを期待します。(学生生活支援委員会)

WEB公開講座報告

本学の第2回公開講座は「医療安全を学ぼう-ヒヤリ・ハット体験からの学び-」をテーマにWeb開催としました。医療現場において事故はあってはならないことですが、人間は間違いをおこすものです。医療事故の中には、薬剤単位の見間違いや思い込みなど援助者側の要因による事故ばかりでなく、患者の転倒・転落事故など患者自らがもつ危険性により入院生活の中で発生する事故もあります。重大事故1件の背後には、より多くの事故寸前の出来事「ヒヤリ」「ハット」した体験が隠されているといわれます。医療事故を防止するためには、ヒューマンエラーがなぜおこるのかを理解したうえで、間違いをおこさないための具体的な事故防止策を考える必要があります。本講座を視聴された方々にとって、看護・介護職を目指す学生に対する医療安全教育がいかに重要かを知っていただく機会になればよいと思います。(看護科 岡田 みどり)

医療におけるヒヤリ・ハットとは

ヒヤリとした体験
ハットと気づいて大事には至らなかった体験

* 誤った医療行為などが
患者に実施される前に発見されたもの

* 誤った医療行為などが実施されたが、結果的に
患者に影響を及ぼさなかったもの

ヒヤリ!



ハット!

(本学 Web サイトより 3/31 まで配信)

2021年度 本学開催のFD・SD研修会

本学では教員の教育能力向上と職員の能力向上を目的として研修会を開催しています(表)。今年度から、新たに新任教員のSD研修会と「学生参画のFD研修会」を行い、学生の意見からも講義方法の改善を目指す取り組みをしています。他にも、川崎医療福祉大学で開催されるFD・SD研修会に参加しています。今後も様々な研修を取り入れながら継続していく予定です。(教務部副部長 榎本 朋子)



第1回FD・SD研修会 5月10日(月) 5月14日(金)	遠隔授業研修会 重田 崇之 講師
第1回FD研修会 5月31日(月)	科学研究費獲得に関して 掛屋 純子 准教授
第1回SD研修会 6月17日(木)	効果的な高校訪問に関して 藤澤 薫 課長代理
第2回SD研修会 7月19日(月)	より良い人間関係作りのために～価値観のワークを通して～ 太田 栄子 准教授
第3回SD研修会 7月29日(木)	教員活動評価票における目標管理シートの書き方 新見 明子 副学長
第2回FD・SD研修会 8月26日(木)	学生指導に活かすSNS研修会 ㈱コムパレット 桐野 志摩美 代表
第3回FD・SD研修会 9月15日(水)	目からうろこのワード・エクセルの活用術 川崎医療福祉大学 谷川 智宏 講師
第4回FD・SD研修会 12月27日(月)	令和4年度シラバス研修 松本 明美 教務部長
第5回FD・SD研修会 1月25日(火)～27日(木)	WebClass講習会 重田 崇之 講師
第6回FD・SD研修会 2月10日(木)	Teams講習会 重田 崇之 講師

Best Activity Award

特色ある活動によって教育・研究・学内外活動に
顕著な成果を上げた教員及び教職員グループに対する顕彰

本学では、毎年、教育・研究・大学運営・社会貢献の4領域において「教員活動評価」を実施し、著しく高い評価を受けた教員及び教職員グループを顕彰しています。

今年度は、教務委員会の遠隔授業ワーキンググループ(責任者:重田 崇之講師、メンバー:平口 鉄太郎准教授、熊野 一郎准教授、沖田 聖枝講師、河畑 匡法助教)が顕彰されました。遠隔授業ワーキンググループは、2020年4月の新型コロナウイルス感染者の急増期に、限られた準備期間の中で遠隔授業実施に向けたシステム整備、教員研修、教材作成支援、遠隔授業開始後の教員と学生への対応など、本学の教育の質を落とさない方針に対する貢献が顕著であったことが評価されたものです。

表彰式は2021年12月27日(月)に執り行われ、秋山学長から賞状及び副賞が贈呈されました。今後、さらに多くの教職員が意欲的に活動し、本顕彰を受けることを期待しています。



▲秋山学長と遠隔授業ワーキンググループ

2022年度 公開講座

第1回【医療介護福祉学科】

講座名：「あらためて知りたい！認知症と介護の基本」

第1部：講義「認知症の基本」

第2部：ロールプレイを交えて「介護の基本」

日時：7月16日(土) 10:00～11:30

講師：和田 健二(川崎医科大学認知症学教室教授)

山田 順子(医療介護福祉学科教授)

熊谷佳余子(医療介護福祉学科講師)

大岩 真帆(医療介護福祉学科助教)

第2回【看護学科】

10月～12月頃に実施予定

決まり次第本学ホームページにてお知らせします。

2022年度 総合型選抜結果

試験日：(一次審査)書類選考 合格発表：(一次通過者)9月27日(月)
(二次審査)10月9日(土) (合格発表)11月1日(月)

	看護学科	医療介護福祉学科	計
募集人員(人)	50	25	75
志願者数(人)	60	3	63
出願倍率(%)	1.2	0.1	0.8
合格者数(人)	51	3	54

2022年度 学校推薦型選抜後期(併願)結果

試験日：[A日程]12月13日(月) 合格発表：12月18日(土)
[B日程]12月14日(火)

	看護学科		医療介護福祉学科		計
	A	B	A	B	
募集人員(人)	15		4		19
志願者数(人)	45	34	1	0	80
出願倍率(%)	5.3		0.3		^(平均) 4.2
合格者数(人)	37	30	1	0	68

2022年度 学校推薦型選抜前期(専願)結果

試験日：11月13日(土) 合格発表：12月1日(水)

	看護学科	医療介護福祉学科	計
募集人員(人)	23	15	38
志願者数(人)	34	9	43
出願倍率(%)	1.5	0.6	1.1
合格者数(人)	28	9	37

2022年度 一般選抜前期結果

試験日：[A日程]2月1日(火) 合格発表：2月5日(土)
[B日程]2月2日(水)

	看護学科		医療介護福祉学科		計
	A	B	A	B	
募集人員(人)	30		4		34
志願者数(人)	40	27	3	2	72
出願倍率(%)	2.2		1.3		^(平均) 2.1
合格者数(人)	38	21	3	2	64

主要行事(4月～8月)

4月	1日	新入生オリエンテーション(～7日)
	4日	入学式
	8日	授業開始
	11日	看護学科3年臨床実習開始(～9/22)
	16日	川崎学園入学時合同研修
5月	14日	オープンキャンパス
	21日	スポーツ大会
	25日	医療介護福祉学科1年介護実習I-1開始(毎週水・木曜)(～6/23)
6月	1日	学園創立記念日
	6日	医療介護福祉学科実習開始式
	10日	合同入試説明会
	19日	3校合同オープンキャンパス
	20日	医療介護福祉学科2年介護実習I-3開始(～7/8)
7月	24日	3校合同オープンキャンパス
8月	1日	前期定期試験(～8/12)
	13日	夏季休業(～9/20)
	20日	オープンキャンパス

OPEN CAMPUS 2022

オープンキャンパス2022 開催スケジュール

●川崎医療短期大学オープンキャンパス

(受付：本学にて)

開催日時	
5月14日(土)	13:00～16:00
8月20日(土)	13:00～16:00
10月15日(土)	10:00～15:00
10月16日(日)	10:00～15:00

●合同オープンキャンパス

(受付：川崎医療福祉大学にて)

川崎医療短期大学・川崎医療福祉大学・**3校合同開催**
川崎リハビリテーション学院の

開催日時	
3月27日(日)	9:30～12:00 13:00～15:30 [事前申込制]
6月19日(日)	9:30～12:00 13:00～15:30
7月24日(日)	9:30～12:00 13:00～15:30

◆体験・模擬講義、入試概要説明、入試相談など、豊富なコンテンツ!

◆参加された方に記念グッズなどプレゼント!

合同オープンキャンパスは・・・

◆当日JR中庄駅から往復無料バス運行

◆駐車場あり

新型コロナウイルス感染の影響によりオープンキャンパス他の予定が変更となる場合があります。また、オープンキャンパスが事前申込制になる場合がありますので、事前にホームページ等でご確認ください。
<https://j.kawasaki-m.ac.jp/>

なお、学校見学に関するお問い合わせは、事務室までご連絡ください。

TEL: 086-201-5333

(受付：平日9:00～16:00、土曜9:00～11:30)

川崎医療短期大学広報誌

「若きいのち」(110号)

令和4年3月発行

編集発行：広報誌作成ワーキンググループ

熊野 一郎(看護科・責任者)

見尾 久美恵(看護科)

平口 鉄太郎(医療介護福祉科)

石原 律子(事務室・書記)

小池 香里(事務室・書記)

写真協力：二葉写真館

印刷：友野印刷株式会社

皆さんからのご意見・ご要望をお待ちしております。

〒701-0194 倉敷市松島316

川崎医療短期大学 広報誌作成ワーキンググループ

電話：086-464-1032(事務室)

4/1より

〒700-0821 岡山市北区中山下二丁目1番70号

TEL 086-201-5333(代表) FAX 086-201-5676

Eメール：kouhou@jc.kawasaki-m.ac.jp

ホームページ <https://j.kawasaki-m.ac.jp>

既刊の「若きいのち」は、本学ホームページでご覧いただけます。

新任職員紹介

11月から本学の仲間になった職員を紹介します。



大後 昌代 事務室 事務員

11月に附属病院から異動してまいりました。病院での勤務経験を生かし、学生の皆さんや教職員の方々のお力になれるよう頑張りたいと思います。

編集後記

本号では、岡山キャンパス移転を前に、新見副学長と名木田前副学長に本学の歴史とこれからの展望を執筆していただき、松島キャンパスでの最後の特集といたしました。

本学の校舎棟は、1970年に戦後初めて認可された私立医大である川崎医科大学の校舎棟として誕生したものであり、この松島キャンパスは川崎学園の始まりの地となった場所です。その後、1972年に川崎医大が現在の地へ移転し、翌1973年に本学は開学しました。2022年4月、本学は川崎学園の礎たる旧川崎病院跡地に新設された岡山キャンパスの新校舎に移転します。創設者・川崎 祐宣先生の歴史を辿るような移転に際し、先生が建学の精神に込められた思いを胸に刻み、さらなる発展を目指していきたいと思っております。

移転を機に、本誌も次号より内容を一部刷新するとともに、Web媒体のみの発行とさせていただきますことになりました。印刷媒体としては最終号となりますが、バックナンバーはWeb上で閲覧可能ですのでご利用ください。

最後になりましたが、移転作業などもありたいへんご多忙中、快く記事を執筆してくださいました皆様へ深く感謝申し上げます。
(看護科 熊野 一郎)



▲岡山キャンパス新校舎